

（午後1時50分 再開）

○議長（小林 弘君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番4、11番 杉本君。

〔11番（杉本俊彦君）登壇〕

○11番（杉本俊彦君）それでは、一般質問を始めます。

橋本市のいいところについてという質問を書きましたら、この質問を出しましたら、市より電話がかかってきまして、ハードなんですか、ソフトなんですかと聞かれまして、さほどハードとソフトの意味が分からないままハードですと答えまして、ほんだら、ハードなら、ほんならこちらの課ですねとか言われて、私にはよく分からない話が進んでおったんですが、とにかく私は、橋本市にはたくさんいいところがあるというのを、市はどう考えているのかと思ひまして、今回、質問しております。

議員になり、出かけることが多くなりまして、会う人もたくさんいます。そのたびに話す機会が増えまして、その中でよく聞かれることは、橋本市のいいところはどんなんですかと聞かれるわけなんです。市のいいところとはどこなのか、何なのかと。お考えをお聞かせいただきたいのです。

なぜか。それは、いいところがたくさんあれば、日本中の人を知ったら、人口増加になるように人が寄ってこないかなというふうに考えての質問なんです。よろしく願いいたします。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君の質問、橋本のよいところに対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（北岡慶久君）登壇〕

○経済推進部長（北岡慶久君）橋本市のよいところについてお答えします。

平成30年（2018年）度に策定した第2次橋本市長期総合計画では、めざすべきまちの将来像を「人輝き あたたかさ湧きでる みんなで創造する元気なまち 橋本」とし、基本目標を「ともに創る」「ともに守る」「ともに育てる」としています。

総合計画では、本市のよいところ、市の強みとして、人が暖かい、犯罪が少ない、豊かな自然・河川・緑地、自然災害が少ないなど、市民意識調査、ワークショップ、カフェミーティング、各種団体等から意見が出されました。

本市は平成28年4月に機構改革を行い、商工サポート、観光プロモーション、定住促進を担当するシティセールス推進課を設置しました。令和2年4月に策定した第2次シティセールス基本方針では、橋本市には、歴史・文化、それらを背景に栄えた地場産業、暮らしなど地域の誇るべき特色があり、これらの魅力をターゲットに合わせて分かりやすく売り込むことで、橋本市の認知度や魅力の向上を図るとともに、橋本市に対する愛着・誇り（シビックプライド）を持つ人を増やすことで、交流人口・定住人口の増加を図り、また、橋本市のイメージや知名度を高めるとともに、人や企業に好かれ、愛着を持ってもらうため、橋本市が持つよさ、魅力を市内外に効果的・戦略的に発信することを骨格としています。

具体的には、橋本市にある地域資源を磨き上げ、橋本市でないと得ることのできない価値、魅力を創出するなど、橋本ならではの取組や情報発信をめざしています。

定住人口の増加と定住につながる交流人口の増加の二つの目的に分けてセールスすべきポイントをまとめると、定住人口の増加では、大阪まで約40分の通勤圏、自然が豊か、住宅開発地もしくは山間部など住むのに選択できる環境、身近な地域で取れた新鮮な農産物が挙げられ、定住につながる交流人口の増加では、歴史街道、歴史的建造物、世界遺産高野参詣道黒河道、日本遺産葛城修験、パイル織物、紀州へら竿、柿、鶏卵等地場産品、桜、チューリップ、藤の花、アジサイ、蛍、紅葉、温泉など四季を通じた見どころやイベント、サイクリングロードの充実などが挙げられ、これらが地域資源として売り出すもの、言い換えればいいところと言えます。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君、再質問ありますか。

11番 杉本君。

○11番（杉本俊彦君）答弁ありがとうございます。

さて、私がそもそもこの質問をしようと思った理由なんですけども、壇上で申し上げましたが、いろんな機会でも、本市を紹介する際、橋本市をどのように相手方に伝えているのかというところからであります。

本市は紀伊半島のほぼ中央に位置し、北は大阪府、東は奈良県に隣接する市で、中央には東西に紀の川が流れ、北部には生駒山や岩湧山に代表される金剛生駒紀泉国定公園、南部には世界遺産高野山や名勝玉川峡などから成る高野山町石道玉川峡県立自然公園があります。豊かな自然に囲まれた田園都市です。

橋本は、はるか平安の時代から高野山へ参詣する人々でにぎわった高野街道と、江戸時代には参勤交代のルートとして栄えた大和街道、この二つの街道が交差する交通の要所として発展してきました。16世紀後半に高野山中興の祖である応其上人が、高野詣でを図る

ため紀の川に橋を架けたことから橋本という名がついたと由来されています。

高野口駅前にある葛城館は今でも当時の面影を残す建物の一つで、金剛峯寺御用達の看板は当時をしのびます。石童丸物語ゆかりの寺、苜萱堂は今もごぞいます。

交通の要所としてのこの地の利便性は、国道24号や国道371号など、鉄道ではJR和歌山線や南海電鉄高野線など、大阪近郊の田園都市として魅力的なまちを形成しています。そして、和歌山と奈良、京都をつなぐ高規格道路である京奈和自動車道や国道371号バイパスの建設により、今後のさらなる発展が期待されています。

橋本市の観光は何ととっても自然です。川遊びやハイキングなど豊かな観光があり、観光スポットが散在しています。これは先ほどの市の説明でもされたとおりであります。四季折々の豊かな自然に囲まれた温泉、やどり温泉いやしの湯は心も体も癒やしてくれます。

魅力あふれる特産品もたくさんあります。紀州へら竿は120年以上の伝統を受け継ぐたくみの技、和歌山県伝統工芸品第1号に登録され、全国シェアは90%を誇り、隠れ谷池で開催しているへらブナ釣りで腕を競います。

130年以上の歴史を持つパイル織物は国内シェア80%。過去には衣料品、インテリア用品から飛行機のシートなど世界中で活用されています。地方の特産品を販売する裁ち寄り処では、パイル製のハンカチやタオル、ポーチなどがあります。

そのほかにも、柿、ブドウ、卵、柿の葉寿司が橋本市の特産品として有名です。地元で取れた新鮮な農作物が集まるファーマーズマーケットややっちょん広場には他府県からたくさんの人が訪れ、朝からにぎわいを見せます。

紀望の里には農産物直売所があり、橋本周

辺ごみ処理場エコライフ紀北の焼却熱を利用した浴場もあります。市民の交流の場となっています。

受け継がれた伝統の祭りや新しい暮らしの中で生まれてきた催しなど、四季を彩るイベントがあります。桜まつり、嵯峨谷の神踊り、秋祭り、胡麻生の八幡さんや隅田の八幡さんでやっています。まっせ・はしもと、橋本マラソン、ふるさと体験村などあります。

利便性に富んだ住環境を説明すると、橋本市では1970年代から大規模住宅開発が始まり、南海高野線の林間田園都市駅を起点に、三石台、城山台、小峰台、向陽台、紀見ヶ丘など、大阪のベッドタウンとして丘陵地に緑豊かな住宅をつくっております。今では京奈和自動車道とのアクセスの利便から、あやの台やさつき台でも住宅開発が進んでいます。

さらに、近隣には生活を豊かにする利便施設が充実しており、オーストリートには11万㎡の敷地にスーパーマーケット、医療品店、ホームセンター、フィットネスクラブ、スーパー銭湯などが立地し、市内外からたくさんの方が訪れます。

2003年に最新医療機器を導入して新設された橋本市民病院は、救急医療、高度専門医療に応える地域の中核病院としての役割を担っています。2011年10月には小峰台に橋本北消防署を新設し、北部地域の救急体制を強化しました。

橋本市運動公園には、ナイター設備を備えた多目的グラウンドにテニスコート、市民プールや子ども向けの遊具、遊歩道もあり、本格的なスポーツから気軽な散歩まで楽しめる市民の憩いの場になっています。運動公園に併設されている県立橋本体育館には、メインアリーナ、サブアリーナ、武道室、トレーニングルームが完備。子ども向けトレーニングスクールやエアロビクス教室、ヨガ教室など

様々なイベントや教室があります。温水プール・レインボーでは、1年を通じて水泳を楽しめます。関西屈指のチャンピオンコース、橋本カントリークラブは桜の名所としても有名です。

プロサッカー選手を多数輩出し、立命館とも提携している私立初芝橋本中学校・高等学校、中高一貫教育により充実した教育施設が整い、創立110周年を迎えた県立古佐田丘中学校・橋本高等学校、創立100周年を迎え、現在は廃校になっておりますが、既に甲子園3回の出場を果たしている県立伊都高等学校、ソーラーカーレース鈴鹿において数々の優勝を果たし、2011年にはマイコンカーラリーや次世代エネルギー化イベントでも優勝した県立紀北工業高等学校などがあります。

橋本市の重要施策として位置づけるのが企業誘致です。平成17年に企業誘致室を設置し、紀北橋本エコヒルズへの誘致を成功させた。小峰台用地と紀ノ光台用地と紀ノ光台Sゾーン用地を持ち、販売が終了している。いるのかな、途中かな。ちょっと済みません。さらに、南海電気鉄道と和歌山県と橋本市で約100haのあやの台北部用地には企業立地を誘致するというので、現在造成中であります。

今、これはまとめたんですけども、実は、これまとめたのは、10年前の本市の資料から探し出した言葉を全部つなぎ合わせました。私なりにと言おうか、そのなりに。だから、市のホームページを見ていってもらうたら、こんな全部書いてあることなんです。

ただ、橋本市を、外でどんなまちでと言われたら、文章で、今読むのに随分時間かかったんですけど、それぐらいのことを言わないと言えないんです。私はこれが不満だったので、今回、一般質問させていただいたわけがあります。

現在は、幾つかのキーワードはこれとは別

にあります。筒香嘉智、溝端淳平。和歌山県の東玄関口、私は時々、大阪府橋本市と言うてしまうんですが、いろんな形でいろいろあるんですけど、皆さんはどうですか。

今回の質問で答弁にありました、橋本市に対する愛着・誇り（シビックプライド）を、いかに市として構築していくのか。何より橋本市と言えど自己紹介できるものを官民一体でつくろうではないかと、大きな夢を語りたいと思っています。

それでは、再質問させていただきます。

橋本市の将来を担う子どもたちが、いかに橋本市に愛着を持つかという点ですが、まずは、経済推進部農林振興課における小学校児童を対象とした取組をご紹介します。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）答弁に触れていなかった多数のご紹介ありがとうございました。ただ今のご質問にお答えさせていただきます。

令和3年6月15日に本市農産物産地化事業の一環として、隅田小学校3年生44人に対する白ゴマ栽培体験、種まきを行いました。通常であれば、その後、収穫作業等も行いますが、新型コロナウイルス感染症の影響で収穫体験は中止として、小学校の授業の中で収穫作業を行っていただきました。さらに、来る3月7日に隅田小学校においてゴマ豆腐作り体験会を開催することとなっています。

また、伊都振興局と共同で、例年、柿の体験学習を行っています。内容としては、本市特産である柿を市内児童に知ってもらうための出前事業で、柿の特性や栽培方法、食べ方などをクイズ形式で学んだ後、柿渋の渋抜き体験やつるし柿作り体験を実施しています。令和3年度については10月4日から11月25日までの期間、市内11小学校で実施し、延べ392人の児童の参加を得ました。

また、清水小学校、学文路小学校の3・4年生31名を対象に、地域への愛着や誇りを獲得するための契機として、地域特産のはたごんぼの栽培体験を行っています。実施主体は橋本河南地区活性化協議会及びくにぎ広場で、春の植え、夏の草引き、冬の収穫作業を体験しました。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君。

○11番（杉本俊彦君）なるほど、ご紹介ありがとうございます。白ゴマ、柿、はたごんぼが子どもたちへ橋本市の特産物としてインプットされていくわけですね。

ということで、そういえば、この2年間の柿のPR、皆さんご存じでしょうか。昨年度よく貼っておりました、市役所の中に。「愛に飢えたら柿、食べよ!」、このキャッチフレーズが非常に面白くて、私はフェイスブックにも上げたくらいでありました。

令和3年度、「この世界を柿色に染めたい」という、ご存じの方もあつかいよく分かりませんが、こういうのも出されていて、この中には、自分が柿になったつもりでの、柿がしゃべっているような文章になっております。

「私は和歌山を代表するフルーツ。秋に色づく私は誰にも負けない甘みがある! 乾燥させたら更に甘みをギュッと凝縮させて美味しくなる。美味しさだけじゃないよ。私にはお医者さんが青くなるほどの栄養成分があると言われるよ。そうそう、日本を代表する俳句に詠われたこともあった! 私には大きな夢がある… それは、日本中を柿色に染めたいんだ。そして、みんなを笑顔にしたい。和歌山県橋本市」と、柿一色の斬新なポスターに書かれております。

柿の夢に私も負けてはいられないんです。頑張りますということで、次の質問に入ります。

続いて、教育長に質問させていただきます。橋本市に対する愛着、誇りを持てるようになるために、どんな教育をされているのでしょうか、お願いいたします。

○議長（小林 弘君）教育長。

○教育長（今田 実君）ただ今のご質問にお答えさせていただきます。

学校で地域について学習する機会は、低学年からスタートします。身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身が自分の生活について考え、表現できることができるようにすること、それが目的です。

具体的な活動としては、身近な町を探検する計画を立て、実際にまちに出て、すてきなところを探し、まちの人と話をしたり質問をしたりすることで、すてきなところや魅力を発見し、それをレポートにまとめ、学校や家庭で伝えるという学びを行っています。

中学年、高学年になるに連れてエリアや対象が広がるとともに、目的も、暮らしているまちの今と昔の様子や、まちで働く人々がみんなの願いをかなえるためにどんなことをしているのかを調べることを通して自分が住んでいるまちを好きになったり、そこで頑張る人々のことを知ったりすることで地域への愛着や地域とのつながりを感じるとともに、私たちの社会はいろいろな人々によってつくられていること、みんなが幸せに暮らすことができる社会をめざして知恵を出し合い、力を合わせて生きていることを理解する方向へと深まっていきます。

単に橋本市にはこんなところがありますよということを知識として学ぶということではありません。学びの題材としては、橋本市教育委員会が作成した「ふるさと橋本学」や、共育コミュニティを中心に共同で作成した地域の宝マップなども活用しています。

学びの過程で、橋本市の魅力あるもの・こ

と・人などに気づき、さらにその背景にあることを発見することで、橋本市のよいところを深く理解することにつなげていく学びを行っています。

こういった学びには地域の方々の協力もかなり多く得て進めてこれています。学校としては、すごく感謝するところです。ただ単に学ぶことだけでなく、人とのつながりの中で、より一層、子どもへ向けるまなざしが生まれる、それが地域愛、地域を育てること、地域の教育力であるとも考えているところです。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君。

○11番（杉本俊彦君）ありがとうございます。橋本市のいいところは、子どもたちに教えるのではなく、児童生徒がふるさと教育を通じてしっかり言えるように育っているということで、どちらかといえば大人が即答できないというところが大きな課題かもしれません。

続いて質問させていただきます。橋本市をPRするためにあるシティセールス推進課、シティセールスの現段階での課題を教えてください。また、そのために、今後、連携等も含め、どのように考えているのか教えてください。

○議長（小林 弘君）経済推進部長。

○経済推進部長（北岡慶久君）令和4年4月から、シティセールス推進課にある観光プロモーション係と定住促進係を一つにしてシティプロモーション係とすることを予定しています。

シティセールスの現段階の課題としては、ゴールとして定住人口や交流関係人口を増加させるということに対して、ターゲットとして設定した層にどのようにまちの魅力を届けることができるか、また、市民の方がまちの魅力を語る地元愛を醸成することができるかという、二つの内と外に向けた課題がありま

す。その上で、本市をいかに知ってもらおうかという取組を一丸となって行っていく必要があります。

そのために、令和4年度については、シティプロモーションのノウハウを有する専門家とも連携して、手法や考え方を学びながら、実践に取り組んでいきたいと考えているところです。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君。

○11番(杉本俊彦君)ありがとうございます。

それでは、文章は届いていないと思いますが、実はもう10年後を考えましたら、橋本市のここに出てこられている方々は、これがあれば日本一だなというふうになって、子どもが増えるんじゃないかなと思えるようなことをお話しさせていただきます。

まず、消防長にお尋ねします。突然ですが、申し訳ありません。

救急医療、救急は119番がかかってきたときに、平均3分で現地に到着できるように頑張れるということはございませんか。無理ですか。いや、それ、もうごめんなさい、できるかできれへんか、突然なので、私も済みません、答えどなんんか分からないんですけども。

いや、もう皆さんに聞くつもりで、ここ段取りしていますので、皆さん、それぞれの部署の方で。消防長。

○議長（小林 弘君）消防長。

○消防長（福本富雄君）お尋ねの、3分で出動できるかということですけども、出動体制が取れるかというご質問か、現場に到着するかじゃなくて出動体制が取れるかということでしょうか。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君。

○11番(杉本俊彦君)現場に到着できる平均時間ということでお答えいただければいいです。

○議長（小林 弘君）消防長。

○消防長（福本富雄君）橋本市のだいたい平均は五、六分ということになっています。山間部等はやはり遠くなりますし、近いところがありますので、その辺のことを踏まえて、五、六分ということでご理解いただきたいと思います。

○議長（小林 弘君）暫時休憩します。

（午後2時18分 休憩）

（午後2時18分 再開）

○議長（小林 弘君）再開いたします。

11番 杉本君。

○11番(杉本俊彦君)今のは橋本市のいいところになつとるんですけど、もし3分で行くならすごいええところやと思うんですけども。安心して引っ越してきてもらえそうな気がするんです。緊急の場合にすぐ来てもらえる。

それでは、病院にお尋ねします。救急は100%受け入れる体制はできますか。

○議長（小林 弘君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）ただ今のおただしですけども、現時点では100%というのは目標であり、実施できているかということに関しましては、現時点では実施できておりません。ただ、病院としてはそういった気持ちで、全職員、救急体制、救急患者の受入れに取り組んでおります。

以上です。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君。

○11番(杉本俊彦君)ありがとうございます。目標は、外から人を呼ぼうと思ったら、そのまちではできていないことを、安心できる意味で、救急車で100%受けてもらうと思ったら物すごい安心感があるので、よそから、隣町から人が来てくれるんじゃないかなという、それぐらい橋本市はいいところですよというアピールにできるかなということでお尋ねし

ます。

教育関係をお尋ねします。

小学校、中学校は宿題を出さない。通知簿は、美術、音楽はつけない。これについてのお考えを。いや、これ私が言うているのは、小学校、中学校、宿題出さなければ、子どもは橋本市ってそんなとこやったら絶対引越したいと、こう思うわけです。いや、いいところか悪いところかと、人口が増えるというふうな形で、もし増やしたいのなら、それなりのインパクトのあることを考えないといけないというふうに私は考えておるわけなので。

そんなことを、例えば美術にしても音楽にしても、好きとか嫌いになるのは、あれ通知簿をつけてしまうからです。あんなんもし通知もなかったら、みんな好きですよ。ほんなん生まれたての赤ちゃんから、うちら3歳の孫おるけど、そんなん音楽嫌いな孫いませんものね。

嫌いになるのは通知簿があるからですから、なかったら、通知簿のないまちやったら私行きたいわと子どもが言うたら、どんどん来るんちゃうかなと思いませんか。私は単純にそう思ったので、教育委員会どう考えているか、お答えをお願いします。

○議長（小林 弘君）教育長。

○教育長（今田 実君）今ご質問のあった二つの項目については、教育委員会が責任を持って決めることではなく、学校長が決めることになっております。

一つ目の宿題については、教育課程と直結しております。教育課程の編成の責任者は校長であります。校長は子どもたちにどんな力をつけたいかということを考えて上で、教員、職員と話をしながら、宿題の在り方について考えております。

ちなみに、私が校長をしているときに、宿題の仕方を変えたということはしました。な

ぜかという、やっぱり大切なことは学校で学んだことを家でもう一度復習すること。それは次の授業につながるからなんです。宿題の中身を復習中心のものに変えたということは行いました。ただ、それを全部なくすということは、私はそこは選択はしませんでした。

それぞれの学校において、このように、校長は子どもたちにどんなふうに力をつけたいかということで判断しておりますので、一点目については、ご理解ください。

二点目の通知表については、通知表も出すか出さないかは校長に委ねられております。ただし、制度として決められています学習指導要領の評価というのは、これは決められた様式の中でしていかなければなりません。

今おただしの部分というのは、子どもにそれを返すときに、学校としてどのような形でそれを使っているかということが問題になる部分だと考えます。ですから、子どもにとって励みになるような形で評価するということは意味のあることだと思いますので、一概になくすということもできないのではないのかなというふうには考えております。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君。

○11番（杉本俊彦君）ありがとうございます。やっぱり教育者は、それはそのとおりのやなどというふうな回答をいただきました。

ただ、橋本市は人口を増やしたいんです。ほんだら、教育において何をしたら人口が増えるかと考えた場合、いろいろあるあると思います、それは。プラスもあればマイナスもありますけども、私は宿題を出さないというのも一手かなと。ほんだら、河内長野市からもう橋本市へ行こうよとか、五條市から橋本市行こうよと、子どもが宿題しんどいやんというようなときは、ぜひ橋本市へ親子共々来てくださいということが言えたら、私ら外へ行ったら、橋本市は宿題ないんよと。それは

物すごいインパクトがあると思います。

それが教育にとっていいか悪いかは、今、教育の方が判断すれば、それはしゃあないやろうけど。

(発言する者あり)

○11番(杉本俊彦君) 何で。同じですやん。いいところがあるかどうかというのだけです。全部しませんよ。私、自分の書いてあるのだけですから。

それでは、ほんだら、婚活も昔やっていたよな。婚活パーティーなんですけど、どこの部署になるか分かりませんが、これいろんな方に聞いたけど、やっぱりやってほしいという希望がたくさんあるんですけども、婚活パーティーなくしたのにはいろんな事情があったと思うんです。それを含めて、ほかに結婚というものの知り合いを増やすというようなことを、どないかして、何か市が入っていくような活動はできないのでしょうか。お願いします。

○議長(小林 弘君) 経済推進部長。

○経済推進部長(北岡慶久君) 婚活につきましては、本市では過去取り組んでおりました。現在取り組んでおらない理由なんですけど、何年もしていくと、参加される方が固定してしまったり、様々な個人情報等が本人を通じて、あの人がどうやこうやというような話になり得る可能性が非常に高くなったということで、行政として取り組むことは控えております。

ただ、和歌山県のほうで婚活という視点で取り組んでおりますので、本市においてもそういった事業を紹介しながら取り組んでいるという状況ですので、ご理解いただきたいと思えます。

○議長(小林 弘君) 11番 杉本君。

○11番(杉本俊彦君) ありがとうございます。

そこも含めまして、10年後の橋本市にはたくさんいいところがあるという中で、実は、

高野口町のオカザキ紀芳庵が、今、たまご絵本館というのを建てております。コンピューターでやったらよかったんですけど、たまご絵本館、これが多分、全国にはないというところでした。こんな形で。見えるかな。このたまご絵本館、10年後には多分、全国で初なので、物すごい人が来ると思います。

それと、パイレーツ筒香ミュージアム。これ今、OBとかいろんな方に本気かと言われてまして、いや、できるとは思いますけど、市のものかどうかはよく分かりませんという答えをしています。ただ、橋本市にはできるのはほぼ間違いないんじゃないかなというふうな、私の持つとる情報はそれだけですので。でも、10年後は、どこのものでもいいんですけど、橋本市にこれができるようになったときに、人に紹介できます。

あとこれ、県初の、新聞に載っておったんですけども、グローブ・メーカー、クラブ・メーカーというんですか、GROWという会社。これは和歌山県で唯一のクラブ・メーカーとしてやっとなで、10年後を期待しとるんですけど。

これ、高野口の子ですけども、東京藝術大学へ行って、音楽学部作曲科、ノエル君というんですけど、すごい人で、もう10年たったときは恐ろしいぐらい有名な作曲家になっとなんじゃないかなというぐらいの形です。

ほんでこれ、この人は有名な方で、非常に有名な方。辻本好美さんという方ですが、もうこれ10年たたんでも、もう今既に有名ですけども、ただ、どないかして橋本市出身の方ですと言うて分かってもらえるところまでつないでいけたらいいなというふうに思っています。

以上いろいろとやりましたのですが、10年後の橋本市で、何と聞かれたときに、何やらのまちと言えたらいいなと思うところをいろ



いろ探しておるんですけれども、これを各担当部署の方々もいろいろ考えて、それなりに、自分とこの部署の中で考えていただいて、よりよい橋本でなっていけたらいいなというふうに思っております。

これは市長に聞きたいんですけど、市長に問うと、ええなと言うたら、ええなで動かなあかんし、この時期、あかんと言うたらもう一生できれへんやろうなとか思いますので、だから、もうそれはもう聞きません。

聞けるのは副市長かなと思うんですけど、副市長にちょっと前もって聞いていったら、全部できませんと言いますと答えられとんで、だから、もうそんなやつたら聞かんほうがいいなと思うんですけども、とにかく、10年後の橋本市のいいところというのをつくっていただけたら、また、私たちも協力してつくっていけたらいいなと思いますので、要望に代えて、これで私の一般質問は終わります。

○議長（小林 弘君）11番 杉本君の一般質問は終わりました。

この際、2時45分まで休憩いたします。

（午後2時29分 休憩）

---